

『期すること…』

かんだ けんいち
神田 健一

●新日鐵住金大分労働組合・組合長

2014年春季交渉がスタートした。長期にわたるデフレからの脱却と持続的な経済成長に繋げるために、働く者全ての賃金改善を図り、経済の好循環を実現させる重要な転換点と位置付けられた取り組みである。

わが国の経済情勢は、言うに口惜しさは残るものの、アベノミクス効果で円高の是正や株価の上昇によって各経済指標も上向いている。鉄鋼産業に関わる建設・土木、造船受注、自動車、産機等も回復・改善、年間粗鋼生産も1億1千万トン越えである。

「風は追い風」、そんな声も聞こえてくるが、上空を吹き抜けるだけの風でなければと危惧している。足下の状況は、政府の経済対策や、消費税率の引き上げを睨んだ需要の伸びが下支えていること、その反動と生活必需品の値上がり、社会保険料等の公課負担増、加えて労働者保護ルールの改正論議に至っては働く者にとって厳しさ迫る不安材料に他ならない。また、1,000兆円を超える債務を抱える中で、2050年には1億人を割る人口減少、しかもその内38%が65歳以上という超高齢化、それに伴う社会保障制度の存続の危機、社会インフラの老朽化対策は、震災後の防災・減災以前の大きな課題、加えて未曾有の3.11東日本大震災の復興・再生はまさにこれからである。

けっして、ここに及んで腰が引けているのではない。私たちは、衆参両院議員選挙で、大きな、そして2度と経験してはならない勉強をさせてもらった。そして、組織強化のあり方、職場原点の運動を再度見つめ直す機会を与えられ

た。今回の春季取り組みは、そうした課題を乗り越え、組合員と固い絆で繋がる組織づくりに再挑戦するスタート台と捉えている。

それだけに、事の本質を見誤らず、景気回復の腰折れを防ぐ政策的対応と持続可能な成長へとつなぐための民間主導の経済構造への早期移行、熾烈化するグローバル競争下で戦える公正な競争条件整備など、政策制度・産業政策の重要性と個別労使における賃金改善、これらを通じた働く者の安心・安定の確立こそが、職場の活力に・競争力の強化に、そして社会の元気につながるものであることを、組合員にも経営にも等しく理解される場としていかなければならない。

常々、口にしているが、「安全無くして職場の生き活きなし、職場の活力なくして企業の発展なし、企業の発展なくして私たちの雇用と生活の安心・安定なし」。好循環は最も身近な基軸から“風”を起こしていくものだと思っている。

いかなる状況にあっても好循環の理念は揺るがない…先達の教えでもある。労使互いの主張が辻褃合う結果となってほしい。『「辻」は裁縫で縫い目が十字に合う所。「褌」は着物の裾の左右が合う所』つまり、合うべきところがきちんと合う物事の道理。

2014年春季取り組みによって、好循環の運動の具現化を図り、その取り組みを未組織労働者の支援につなげ、ようやく動き始めた景気とやらの回復を本物にしなければならない。